

令和6年度第5回教育委員会協議会 会議録

令和6年度第5回教育委員会協議会

場所：高知県庁西庁舎 2階 教育委員室

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 令和7年1月14日(火) 14:45

閉会 令和7年1月14日(火) 16:30

(2) 教育委員会出席者

出席委員	教育長	長岡 幹泰
	教育委員	池 康晴
	教育委員	小田 通
	教育委員	森下 安子
	教育委員	町田 美紀
	教育委員	弥勒 美彦

(3) 主な出席者

高知県教育委員会事務局	教育次長 (総括)	小笠原 直樹
〃	教育次長	濱川 智明
〃	高等学校課課長	並村 一
〃	高等学校振興課課長	野田 健一
〃	高等学校振興課主幹	吉村 貴史 (議事録作成)
〃	高等学校振興課指導主事	大石 智則 (議事録作成)

(4) 議事の概要

【冒頭】

教育長	ただいまから県立高等学校再編振興計画の次期計画に関する、令和6年度第5回教育委員会協議会を開催する。 本日は県立高等学校振興再編計画の策定に向けてご検討をいただく。 第4回教育委員会協議会で協議していただいた意見を反映させた計画案や計画のサブタイトルについて、事務局から説明の後、協議を行う。
-----	--

【資料説明】

- ・ 県立高等学校振興再編計画(案)及び前期実施計画(案)について

【議題】

1 県立高等学校振興再編計画(案)について

○ 高等学校振興課長 説明

○ 質疑

教育長	ただいまの事務局からの説明について、各委員からご意見をお願いしたい。 スクール・ミッションについて、計画案にはAからEの区分ごとに設定されているが、学校ごとのスクール・ミッションは計画内に記載されるのか。
-----	---

<p>高等学校 振興課長</p>	<p>本計画は方向性を示すものであることから、AからEの区分ごとの位置付けを明確にするため区分ごとのスクール・ミッションを記載している。 学校ごとの個別のスクール・ミッションは計画内には記載せず、別途協議を行っていきたい。</p>
<p>池委員</p>	<p>計画案7ページの「(3) 多様な学びのニーズへの対応」にある「インクルーシブ教育システムの理念の実現に向けて、特別支援教育を推進する」という部分について、インクルーシブ教育システムに関する注釈があるが、具体的に高知県がどこまで特別支援教育を進めていくのか、インクルーシブ教育システムの理念の実現とはどのようなものなのかが分かりにくい。県民の方々にも分かりやすくしてはどうか。 教職員定数など、特別支援教育の推進には難しい部分もあるが、インクルーシブ教育というのは重要になっていく。高知県がインクルーシブ教育にどこまで本気で取り組んでいくのかが分かるよう、計画に追記してはどうか。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>今回は8年間の計画期間内の取組の方向性として示したもの。多様な学びのニーズへの対応として、具体的には通級制度を様々な高等学校で受けられるようにする取組などを考えており、前期実施計画に通級制度に関して記載している。 それらとの関連も含めて、言葉や表現については協議をしていきたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>やはり県民の方々に理解していただく必要があるため、分かりやすい言葉や表現での計画作成をお願いします。</p>
<p>小田委員</p>	<p>計画案6ページに「高知の自然や、まんが・アニメ等を含む特色ある文化・芸術、人との関わりなど、地域資源を生かした教育活動や体験活動も充実させる。」とあるが、高知県ならではの非常に良い取組であると思う。高等学校が進めていく探究的な学習の題材として、これらを取り入れて魅力のある教育課程を作っていただきたい。 また、中学生に対して積極的なメッセージの発信が必要。計画内に記載されなくても良いので、各学校の取組などを紹介するものがあればよいと思う。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>高知県の強みをどのようにして教育内容に落とし込むのかが重要。コースや学科といった形になるのかは別にして、そうした学びを学校の特色とできるように、市町村や関係機関と連携していきたい。 また、広報については不足しているのではないかという意見を市町村からもいただいていることから、しっかりと広報に取り組んでいく。併せて、中山間地域の各高等学校が集まって取組内容の共有などを行う会議があり、それらを充実させていきたいと考えている。</p>
<p>町田委員</p>	<p>一次産業とより一層連携していくと魅力的になるのではないかと。子どもたちが一次産業と関わり、どのような変化があったのかという事例を載せている学校もあると思うので、参考にしてはどうか。</p>

高等学校 振興課長	<p>体験的な学びも含めて、キャリア教育を充実させていくことが重要である と考える。そうした内容を施策にも反映させていきたい。</p>
森下委員	<p>計画案 22 ページに用語解説で専門的な用語について説明しているが、 例えば嶺北高等学校や橿原高等学校など、高知県がこれまで進めてきた地 域の特色を生かした取組について触れられていないことが、非常に残念で ある。</p> <p>これまでの取組と成果などを追記することで、市町村との協働や関係機 関との連携の重要性がさらに強調されるのではないかと。</p>
高等学校 振興課長	<p>これまでの取組は教育の振興という部分でかなり成果が出ている。そう した内容を計画内に記載させていただく。</p>
弥勒委員	<p>入学定員を 1200 人削減することについて、現状や人口統計を考えてい くことが必要だと考える。入学定員の減少に伴い、教職員数も減少するこ とになるが、教職員の労働環境は非常に厳しい状況にあることから、労働 環境の改善にも配慮が必要ではないかと。</p> <p>また、少人数教育というものはデメリットばかりではなくメリットもあ る。オンラインの教育も組み合わせることで、小規模校でも大規模校ある いは大都市の学校と遜色ない教育水準を保つことも可能である。良い意味 で、少人数教育の環境を逆手に取るような取組も考えていってもらいた い。</p>
高等学校 振興課長	<p>計画案 7 ページに取組の方向性として「個別最適・協働的な学びの一体 的な充実とデジタル教育の推進」としており、教育内容の見直しを行うと ともに、デジタルを活用した個別最適な学びの実現を目指している。</p> <p>前期実施計画ではもう少し具体的に記載しているが、生徒の学びと併せ て教職員の働きやすい環境づくりに取り組んでいくことが必要と考えてい る。</p> <p>また、少人数の学びは生徒一人一人に寄り添った学びができるという強 みがある。そこに地域と触れ合う体験的・協働的な学びを通じて、生徒の 発達を促すような取組を付加させていく。</p>
弥勒委員	<p>大学生と高校生では異なる部分もあるかもしれないが、高知大学が地域 協働学部として取り組んでいる先進事例から学べる知見というものがある と思う。</p>
高等学校 振興課長	<p>大学との連携は今後非常に重要になっている。</p>
教育長	<p>今回の計画案は、高知県がこれまで行ってきた取組を上手く取り入れ て、よりイメージしやすい内容とすること、併せて、教職員の労働環境を 充実させることで良い教育が可能になるという視点を含めての検討を要す る。</p>

池委員	<p>計画案9ページ及び11ページの「(5)定時制・通信制の学校(グループE)」の内容について、定時制夜間部の生徒数や勤労青年の数が減少していることから通信制協力校を各地域に配置するという部分には賛成する。</p> <p>通信制の添削指導をデジタル化することが記載されているが、通信制本校の教育内容にもデジタルをさらに取り入れ魅力のあるものにしないと、協力校を設置しても生徒が希望しないのではないかと。</p> <p>教育内容について見直しをこれから検討していくといった内容を計画には記載してもらいたい。</p>
高等学校 振興課長	<p>各地域での学びの機会を確保するという観点で、通いながら学ぶことができる通信制の検討を進めることとしている。</p> <p>スクーリングを含めた通信制本校での学びについては、見直しの内容をどのように分かりやすく伝えていくのかも重要になってくる。教育内容などについて見直し可能な取組にしたいと考えており、記載内容はまた検討させていただく。</p>
小田委員	<p>計画案の7ページ「(2)個別最適・協働的な学びの一体的な充実とデジタル教育の推進」に「全国に先駆けて本県が導入した遠隔授業等をさらに拡充する」とあるが、全国に先駆けて導入したとはどういうことなのか事例などを挙げて説明するとよいのではないかと。</p> <p>遠隔授業により子どもたちの進路の可能性が広がるのが大事であるため、その部分もより強調してはどうか。</p> <p>また、遠隔授業やデジタル教育、通信教育を行う中で、生徒が孤立した学びとならないようにするという部分を教職員とも共有して、教育内容と併せて指導方法や指導技術を充実させてもらいたい。</p>
高等学校 振興課長	<p>遠隔教育は高知県の強みであり、そこは計画を使ってPRできるようにしていきたい。</p> <p>また、孤立した学びにならないようにするという考え方が、ネットワークづくりにおいて重要となる。生徒がその学校だけに留まらないような活動が可能となる取組も含め、孤立しない学びとなるよう務めていく。</p>

2 前期実施計画(案)について

○高等学校振興課長 説明

○質疑

教育長	<p>ただいまの事務局からの説明について、各委員からご意見をお願いしたい。</p>
池委員	<p>AからEの区分ごとに前期実施計画での取組内容が記載されているが、やはり、高等学校に子どもや保護者の方々が期待するのは進路実現である。どこの学校でも希望の進路に挑戦できるというイメージが非常に重要であり、その趣旨が計画案の中に具体的に記載されていないことは残念である。就職にしろ進学にしろ、それが可能となる最終的な学校であるというイメージを県教育委員会として持っていなければならない。</p>

	<p>また、もうひとつ保護者が重要視するのは「社会で生き抜く力をどのようにして身に付けていくのか」である。そこを重要視して県立高校全体で考えているのだという部分が前に出ていないと、偏った形に見えてしまう。計画内のどの箇所かは問わないので、そうした内容を追加していただきたい。</p> <p>加えて、計画案 19 ページの定時制・通信制について、通信制協力校には教員定数がないが、定時制には教員定数があることから、通信制協力校だけではなく、定時制昼間部への移行も含めて研究をしてもらいたい。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>生徒の進路実現を図ることが高等学校のミッションだと考えている。計画案 4 ページに計画の基本的な考え方を示しており、「(1)「多様性への対応」・「共通性の確保」と地域とのつながりによる教育の質の向上及び環境の充実」において、「いずれの学校・課程・学科にあっても、生徒の進路実現を図るため、義務教育における学びを土台として、社会で生きていくために必要となる資質・能力を全ての生徒が共通して身に付けられる環境づくりに取り組む。」と明記している。</p> <p>定時制に関して、夜間課程の生徒数の減少が著しく、夜間部より昼間部のニーズが高いことから、計画案にあるような方向性での見直しとしている。計画期間中にどのようなことができるのかは今後検討していきたい。</p> <p>通信制に関しては、全国的にも私立高校の通信制が急増している。時間や場所を選ばない学びにどれだけのニーズがあるのか、令和 7 年度から試行的に取り組むことも含めて、研究を進めていきたいと考えている。</p>
<p>弥勒委員</p>	<p>通信制の学校は幅広い年齢層のニーズに応える必要がある。AI やロボットなどの先端技術の普及に伴い、いずれ人間にしかできない業務を生み出していかなければならない時代がくるが、その時に必要となるのはリスキリングである。</p> <p>それを幅広く吸収できる素地として通信制は大いに意味がある。昼間は仕事をして、空いた時間でリスキリングを可能とするのは通信制のメリットだと考える。大学や専門学校との役割分担、教員の確保などの課題は当然あるが、そのような方向性を目指しても良いのではないかと考える。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>現在、通信制は県内に 2 校あり、生徒はそこへ通学するしかないが、それぞれの地域で協力校が設置できれば、最寄りの学校に通学することが可能になる。それに加えて、デジタル技術を活用して、自宅でも学びが可能になるなど、生徒が学びたい時にその機会が与えられるような仕組みを検討していきたい。</p>
<p>小田委員</p>	<p>計画案 17 ページ「(イ) その他の取組内容」の 4 つ目に、県外生徒を積極的に募集していく趣旨が記載されているが、そのためには住環境の整備など受入れ体制の構築が重要である。寮やハウスマスターなどの県外生徒へのサポートについては、市町村と学校、県が協力して具体的に計画していく必要がある。そうした部分で成果を上げている学校に関して、さらに情報を発信していけば良いのではないかと考える。地域みらい留学に参画している高等学校の現状について教えていただきたい。</p>

<p>高等学校 振興課長</p>	<p>地域外、特に県外から生徒を募集するという取組について、地域みらい留学に参画している学校は6校、地域みらい留学に参画してはいないが県外生徒を受入れている学校は13校となっている。県外生徒募集の取組は来年度以降さらに進めて、地域みらい留学に関しては参画校を10校程度まで増やしていく。</p> <p>全国から生徒が集まることは、地域が活性化する、多様な価値観に触れることで地域の子どもたちが成長するなどのメリットがある。まだ県外生徒募集に取り組んでいないところについては、各市町村に引き続き説明をしながら、住環境の充実を含めて、全国募集がさらに進むよう取り組んでいきたい。</p>
<p>町田委員</p>	<p>県の移住促進課などでは、県外から高知への移住を検討する時に何が課題となっているのかなどの知識を持っていると思う。県外生徒を募集するにあたり、他の部局とも連携して、受験の時期や住環境など、どのようにすれば県外から来てもらえるようになるかという改善点を共有できればいいのではないかと。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>入試時期については課題の一つであると認識している。また、どのような取組を進めれば全国から生徒が来てくれるのかという部分について、成功例の横展開を図っていく。</p> <p>まずは一度高知県に来て自然環境などの魅力を知っていただけるよう、アクションプランに取り入れて、市町村と協働して取り組んでいきたい。</p>
<p>森下委員</p>	<p>計画案18ページから21ページの定時制・通信制の学校について、共通している部分があるように思える。例えば19ページ「イ 定時制の取組内容」の3つ目にある「生徒が自己に合った学び方を選択できる」という部分は、定時制に限らず通信制でも言える。定時制と通信制のニーズが共通している部分を先に出して、その中で一人一人に合った多様な背景に合った選択ができるという構成にした方が、より実態を表していると思われるため、計画の記載について検討していただきたい。</p>
<p>高等学校 振興課長</p>	<p>記載内容について、検討をさせていただく。</p>
<p>教育長</p>	<p>入学定員について、令和8年度の入学定員から削減するという事は、令和7年度に実施する入試で定員を削減していくことになる。生徒や中学生に早い段階で説明していく必要があり、我々もスピード感を持って、入学定員の削減に関する計画を考えていかなければならない。</p>
<p>高等学校 課長</p>	<p>全ての学校で一斉に入学定員を削減するのではなく、段階的に実施していくため、なおさら中学生にとってはどこの学校を削減していくのか、非常に敏感なところである。したがって、可能な限り早い段階で、令和8年度の入学定員の削減に関する計画は公表するようにしたい。</p>

教育長	<p>入試の倍率は受験者にとって非常に大きな問題であることから、入学定員についてはスピード感を持って、生徒への周知等ができるようにしていただきたい。</p> <p>併せて、特色化選抜について、令和10年度入学者選抜からということは、令和9年度に実施する入試から、入試の方法が変わることになる。特色化についても、生徒や中学校に対して早く説明していく必要があるため、スピード感を持って取り組んでもらいたい。</p>
高等学校課長	<p>令和9年度に実施する入試であるため、現在の小学校6年生が対象となる。来年度中にはまず方向性をしっかりと中学校に伝達し、具体的な方法についても検討を進めていきたい。また、特色化選抜は各学校の特色に合わせて実施していただくという形になることから、高等学校への周知も必要となると考えている。</p>
教育長	<p>各高等学校と高等学校課が中心になって、十分に話し合っ特色のある選抜方法を考えていただきたい。</p> <p>各学校において令和7年度から令和9年度まで取り組み、令和10年度にその成果を評価して、新しい学校のあり方や方向性が決定されることになる。これからの3年間の取組とその評価が非常に重要になることから、高等学校振興課あるいは高等学校課が進捗管理と実態把握をしっかりと行い、県教育委員会全体を挙げて、入試や入学定員の見直し、学校の特色化に取り組んでいかなければならない。</p> <p>教育委員の皆様方にも知恵を貸していただけるようお願いしたい。</p>

3 県立高等学校振興再編計画（案）のサブタイトルについて

○高等学校振興課長 説明

○質疑

教育長	<p>ただいまの事務局からの説明について、各委員からご意見をお願いしたい。</p>
町田委員	<p>資料2の26ページにあるサブタイトルの5つの案について、例えば案1の「未来へ道を切り拓く学校づくり」だと、大人側の言葉のような印象。県立高等学校振興再編計画という計画名と対になる形で、サブタイトルの方は子どもたち側の言葉のようにした方が良いと思う。</p> <p>「きらっといきいき あったかい」のように、子ども目線のシンプルな言葉を使用してもよいのでないか。</p>
高等学校振興課	<p>事務局で協議をさせていただき、個別に各委員にお伺いしてご意見をいただきたい。</p>
教育長	<p>それでは計画本文とサブタイトルについて、各委員から本日いただいた意見を基に修正し、修正箇所を明確にしたうえで、改めて各委員に了承をいただくという形にしたい。</p>